No.89

校報

KOBE REFORMED THEOLOGICAL SEMINARY

神戸改革派神学校

「求む、献身者！」

袴田康裕（神学校専任教授）

新型コロナウイルスの蔓延の中、神学校は、細心の注意を払いつつ、ほぼ通常の授業を続けることができました。心配してお祈りいただいた方々に心から感謝いたします。

神学校の使命は、教会に仕える牧師を養成することです。2019年の統計によれば、改革派教会の教会数は88、伝道所数は51で、合計139です。これに対して教師は115名ですので、すでに教会伝道所の数より24も教師が足りません。

しかし真の問題は、今後の見通しです。現在60代の教師が38名います。また現在50代の教師が55名います。ですから、単純に計算すれば、今後10年間に、年平均で3.8名の新しい牧師が生まれなければ、現在の教会の体制を維持できません。また、今後20年間に、年平均で4.6人の新しい牧師が必要となります。つまり、毎年4～5名の改革派教会の牧師が誕生しなければ、教会は通常の営みを続けられなくなります。教会には定住の牧師がいて、毎週、御言葉を取り次ぐ礼拝が守られ、群れの一人ひとりが牧される。その当たり前の礼拝生活、信仰生活が、危機に瀕していると言わなければなりません。

現在の神戸改革派神学校は、その教育体制と、訓練を受ける生活環境のいずれにおいても、なお不十分とは言え比較的充実していると思います。しかし、肝心の学生がいなければ、学びと訓練を施すことはできません。今後卒業する神学生で、改革派教会で奉仕する予定の者は、年平均で3名に届きません。とりわけこの2年間は、改革派教会の中で信仰を育まれて来たという入学者が与えられていません。

改革派教会は、ある意味、存続の危機に直面しつつあります。もちろん、教会は主が守って下さると私は信じています。しかし、現実を見据えて、全力を尽くす必要があるでしょう。

私が皆様にお願いしたいことは次のことです。20代から40代の方は、牧師に召されていないか、今一度真剣に主に問うていただきたいと思います。また牧師先生方へのお願いは、牧師に相応しいと思える方がいれば、躊躇なく積極的に声をかけて、献身を促してください。

また50代以上の方は、信徒説教者として教会に仕えることを、真剣に祈って考えてください。神学校の短期課程で2年間集中的に学びと訓練を受ければ、十分その働きができます。引退後でも大丈夫です。是非、考えてください。

教会の現場は、以前よりはるかに複雑化し、牧師の働きに苦労は絶えません。しかし、この働きは本当に尊いものであり、それだけの充実感と喜びが与えられます。

イエス・キリストの教会のために立ち上がる献身者が、今こそ求められています。

卒業生挨拶

別科課程

小河 敬太

(こがわ けいた)

西部中会
神戸長田教会に赴任

私は他教派で10年間伝道者として働いた後、改革派神学校に入学しました。ADHD(発達障害)があり記憶の定着や提出物の期限等に困難を覚え挫折の連続の神学校生活でした。伝道者の道を諦めようとした期間もありましたが、在学中に他教派を含めいくつかの招聘のお話をいただき、御言葉に励まされ、主が御入用ならばと再び伝道者としての召しを確信し、今回、神戸長田教会の定住説教者としての招聘をお受けいたしました。

神学校生活を振り返り心に残ったことは劣等生だった私を先輩、後輩の方々がフォローして下さった事です。また、派遣教会で知り合った方々にも励まされました。特に母教会の西神教会の皆様と弓矢先生の応援と支えがなければ今回の招聘を選択する事はありませんでした。先生方のご指導により私なりにですが、神学的思考も以前よりは随分身についたと思います。困難な中でも慰められ、力が備えられる期間でした。

現在伝道者として働かせていただき幸せです。教会員の皆様が私の弱さを理解しサポートして下さり、尊敬する吉田実先生が共に働いて下さるからです。緊急事態宣言中は小会、執事会の皆様が手分けして毎週教会員の方々に電話でお話を聞き祈り、牧会して下さいました。私は日曜にオンライン、スカイプ、電話等で5回の説教をしましたが、マンツーマンでの礼拝は成長が良く分かり、疲れが吹き飛ぶ程の大きな喜びを経験いたしました。この経験を活かし20代30代の方々に声をかけ牧会の学びもはじめました。霊的成長が早く今後が楽しみです。

CSでは、時間帯を子供が集まりやすい午後に変更し、平日に小学生向けの居場所づくりや中学生へのテニス伝道等を小会で承認していただきました。さらに教会で青少年伝道のためにと卓球台を購入して下さったので、ますますやる気になってきました。これからも、長田教会の皆様と共に万人祭司として成熟へ向かって、祈り学びながらチームで牧会伝道出来る事が嬉しいです。今後の神様の御業にワクワクしております。お祈りありがとうございました。

2年制コース

光後 輝久

(こうご てるひさ)

東関東中会 湖北台教会

2年前の4月に入学しました。その時、67歳になっていましたので、頭と体の衰えが大きく、他の学生のみなさんについて行くのは、はっきり言って、大変でした。ですが、神について、また、聖書について学ぶことは、苦しかった時もありますが、楽しく、また恵まれた2年間だったと思います。なんとか卒業することが出来ました。神が私と共にいてくださったので、2年間続けさせていただきました。これが私の

感想であり、神への感謝の思いです。もちろん神学生の仲間たちの支えも大きかったですし、厳しい中にも優しさを感じる教職員の方々、そして、教会員のみなさんのお祈り、すべてに支えられたと感謝しています。私が神学校受験を決心したのは、今から3年前の11月のことでした。神学校に2年制の短期課程ができたばかりだったので受験することにしました。その頃、神学校に聴講生として通っていましたが、聴講していなければ、このような考えには、ならなかったと思います。

7年前に熊本に転勤するまでは仕事の都合で日曜がほとんど休めず、礼拝出席は数えるほどでしたが、熊本では日曜礼拝はほぼ出席できました。今は、神がわたしを熊本へ転勤させてくださったと信じています。そして、翌年、西堀先生が神学校を卒業され熊本伝道所に赴任されました。そして、神学校の袴田教授が、代理宣教教師として、2か月に一度、熊本へ来られるようになりました。西堀先生の熊本赴任、そして袴田教授の代理宣教教師就任という神のご計画の中に、神は私をはめ込んでくださったと思います。その頃、妻が長老主義についてもっと知りたいと言っていました。袴田教授に相談して、妻は2015年から岡場にアパートを借りて神学校に聴講生として通い始めました。熊本から妻に電話すると、いつも神学校での学びの楽しさが伝わってきました。 私も神学校に聴講に行こうと思い、翌年、会社を退職すると神戸に来て、神学校の聴講に通うようになりました。そして、2年前に神学校入学へと導かれました。

2年制コース

上田 進

(うえだ　すすむ)

西部中会　西神教会

神戸改革派神学校２年制の卒業報告。とりあえず（その意味については後述）、 神戸改革派神学校（2年制）を2020年3月10日付けで卒業しました。これまでの西神教会及び諸教会の皆様のお祈りと励ましを感謝いたします。私は、召命を受けて2017年4月に64歳で入学しましたが、2018年には母のホスピス看取り等に起因して休学をしましたので、結果として「卒業」まで3年を要しました。

私の入学時は、ちょうど神学校における制度の一大変革があり、4年制（「牧師」養成）と2年制（「信徒説教者」養成）の2つのコースが創設されました。私は2年制コースの1期生ということになります。「実験台」と揶揄されことを思い出します。2年制では語学は「オプション」ということでギリシャ語だけ履修のつもりでしたが、結果としてヘブライ語も履修することになりました。厳しい環境（実際、ハード面を言えば、建物全体がコンクリートでできており、冬はさながら冷蔵庫の中に居るよう）で神学校生活を全うすることは並大抵のことではないという趣旨の吉田校長の記事があったことを思い出します。私は、学びに加えて仕事（翻訳）も継続し、その両立を実行しました。確かに非常に大変でしたが、他方、「益」がそれに勝って多くありました。将来の主のための働きに対する神学生の真摯な学びの姿勢、先生たちの真摯で熱心な教育・指導の姿勢、また神学生・教員を支える職員の方々の温かさに触れることができ感謝です。

冒頭「とりあえず」と書いたのは、新たな召命観により、現在、「全科聴講生」として3年生と実質的に同じ学校生活を送っています。いずれ本科生に編入して牧師養成コースでの卒業を志しています。「主は人の一歩一歩を定め、御旨にかなう道を備えてくださる。人は倒れても、打ち捨てられるのではない。主がその手をとらえていてくださる。」（詩編37章23～24節）

新入生挨拶

4年制コース

金 主恵

(キム　チュヘ)

単立
大阪希望教会

主の御名を賛美します！大阪希望教会から参りました金　主恵（キム　チュヘ）と申します。父の仕事で5歳の時に来日し、クリスチャン家庭で育った賛美の好きな女の子です。

高校2年生の春に信仰告白をし、いじめという苦しみの中で夢が与えられました。信仰告白で楽しい道の始まりかと思いきや、「この道は狭い道である。しかし、どんな時にもわたしがいる。」と主は教えられ、「隣人を自分のように愛しなさい。」（マタイによる福音書22章39節）という御言葉を与えられました。そして、「私のように苦しみ、悲しみの中にいる人々に、この素晴らしい愛を伝えたい。主が共にいてくだされば自殺も逃げもすることはない。」という気持ちが与えられ両親と話し合いをしました。すると、私の夢は、胎内にいる時にささげた両親の「息子を与えてください。あなたにささげます。」という祈りの応答であることを知りました。それから7年目となる2020年に、この神学校へと導いてくださいました。主は未熟で傲慢な私が望む簡単な道ではなく、違う道を通して訓練する時間を与えてくださったのです。「主のはかりごとはとこしえに立ち、御心の計画は代々に至る。」（詩編33編11節　新改訳）

神様を素晴らしいアーチェリー選手にたとえたいです。神様は、すべてを予め計画しておられ、必要なところに飛ばしてくれます。私はただ使われる矢として、これからも神様に委ね、与えられた場所で自分の最善を尽くしていきます。

4年制コース

徐 亥貞

(ソ　ヘジョン)

日本同盟基督教団
播磨キリスト教会

主の御名を賛美いたします。私は2002年3月に韓国の日本福音宣教会から派遣を受け日本へ来日しました。今は日本同盟基督教団の播磨キリスト教会で牧会に励んでいる夫と共に仕えております。

私は幼い頃から家族に連れられ教会に通っていましたが、残念ながら学生時代には信仰告白には導かれませんでした。時間が経って保育士の仕事をはじめた時に、私は本格的な聖書の学びを通して自分の罪を告白し、イエス・キリストを救い主として受け入れました。私はかけがえのない主の愛に触れて頂き、自分の人生の将来の歩みとビジョンを祈り求めるようになり、更に深い神様との向き合いの中、ついに献身の思いが与えられ、将来神様のために働きたいと決心しました。その後、神学校の学びと宣教訓練を通してより明確な神様の召命に与らせて頂き献身の思いを再確認することができました。「わたしは福音を恥としない。福音は、ユダヤ人をはじめ、ギリシア人にも、信じる者すべてに救いをもたらす神の力だからです。」（ローマの信徒への手紙1章16節）私は神様の御恵みと憐みによって神戸改革派神学校に導かれました。日々の学びにとても感謝しており先生方と学生の皆様との親しいお交わりを通して更なる成長へと導かれるように切に願っております。そして実りある豊かな宣教活動のために学びと共同体での生活においてこれからも忠実に歩んでいきたいと願っております。どうぞ宜しくお願い致します。

特別研究生

李 明奎

(イ ミョンギュ)

大韓イエス教長老会合同派
サラン教会

私が子どもの時から父は牧師の仕事をしていました。父が説教する姿、人を愛する姿、教会を牧会する姿を見ながら成長しました。父の姿を見て私もイエス・キリストを信じて牧師になりたいと思いました。もちろん牧師の仕事は容易なことではないと良く分かっています。父が牧師になってから経済的な問題が多くありました。食べたいものがあっても食べられず、買いたいものがあっても買えない時が度々ありました。他の人と比べるととても大変な生活でした。それにもかかわらず、私が牧師になろうと思ったのは神様を愛し、人を愛し、神と人とに仕えることが最も大切であると考えたからです。今まで経験した経済的な問題を通して、私は色々なことを悟りました。そしてその経験を通して様々な問題を持っている人々に憐れみを持つことができるようになりました。

私は4年前に日本に来ました。今まで私がもらった恵みを日本の人々に伝える事を願って日本に来ました。最初は日本語ができなかったのでひらがなから学び始めました。日本文化が分からなくて色々な失敗もしました。日本宣教は思っていた以上に大変でした。人に出会うことも難しく、交わりも大変でした。福音を伝えることはもっと難しかったです。しかし神様はすでに働いておられるので、私は神様を信じて歩んでいます。神戸改革派神学校で教会について研究して、教会がない所に福音を伝える教会が建てられるように願います。

特別研究生

崔 大雄

(チェ テウン)

日本キリスト教団
大阪聖光教会

ハレルヤ。今春より特別研究課程で入学した崔大雄と申します。両親が日本の宣教師であるため、中学生のとき日本に初めて来ました。私は26歳の時、インドで、ある老人の最後の姿を通してイエス様と人格的に出会いました。人生でもっとも大切なことは私たちに救いを与えるために十字架で死なれ、復活されたイエス・キリストを信じる信仰であることを悟りました。私のような罪人でも愛して下さる神様を伝える者になりたいと決心しました。

韓国で神学校を卒業し、日本で宣教師として仕えました。しかしある日、「あなたは本当に私が望んでいる道を歩んでいるのか」と、神様に問われました。間もなく長崎の大村市に行きました。妻子別れの石の前で神様よりも家族を愛し、召命よりも安定を求めていた自分を発見しました。しかし御言葉を通して人生においての本当の安定は神様の中に留まることだと再び悟りました。

すぐにすべてを片付けアメリカに行き宣教師訓練を受けました。訓練のときキリストの福音を聞いたことがない日本の人々に、私が出会った神様、今も生きて働かれる神様を伝えることが私を造られた神様の目的であり、そのために命を捧げることが召命であると確信しました。しかし日本で福音を伝えるためにはもっと勉強が必要だと思いました。その時、与えられたのが神戸改革派神学校でした。これからの学びを通して人々の魂を生き返らせる者となっていくことを切に願っております。どうぞよろしくお願いいたします。

全校祈祷日

2月7日、立石章三先生（横浜中央教会）を講師にお迎えし、全校祈祷日が行われました。午前中の講演では、先生自身の経歴について証していただいた後、牧会の現場で培われた経験に基づく様々な助言や、より良い説教者となるための提言を頂く事が出来ました。

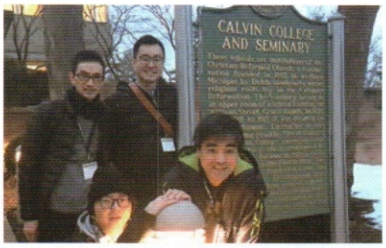
先生の講演を通して教えられたのは、「御言葉に対して熱心に向き合う姿勢」の大切さです。表面的な説教を避けるために必要なことは、何よりもまず説教者自身に語り掛けて下さる神様の言葉に熱心に耳を傾けること、また定説を疑う視点をもち、事実に基づいて徹底的に御言葉を研究すること、そして、語る相手を十分に意識しながら、適切な言葉で語るということです。分団での分かち合いの際に例として挙げられた「大漁の奇跡」に関する先生の考察には、今まで思いつきもしなかった鋭い視点が示されており、思わず「ハッ」とさせられました。神の言葉を取り次ぐことに対する責任を自覚し、絶えずひたむきに御言葉に向き合い続けることが、説教者として相応しい姿勢であるということを、講義全体を通して教えられ、大変良い刺激を頂く事が出来ました。

プログラムの後半には、各中会から寄せられた祈祷課題について個人、全体で集中的に祈る時をもちました。各中会の現状、課題について祈ることにより、様々な課題を抱えながらも、遣わされているそれぞれの地で福音宣教の業に励んでおられる諸教会の尊い働きを覚えることができ、同時に、この神学校の営みもまた、多くの教会の祈りと捧げものによって支えられているということを覚えることが出来ました。

日常生活の中でなかなか祈りに多くの時間を割くことが出来ない弱い者ですが、この日は一日を通して祈りに専念でき、大変恵まれた時を過ごすことが出来ました。これからも祈りによって神様と密に交わり、将来の働きの為、御言葉と精一杯向き合っていきたいと思います。

2年生　川端達哉

礼拝シンポジウム



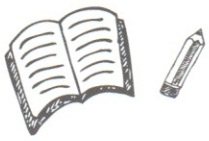
米国・カルヴィン神学校で1月30日から3日間行われた「礼拝シンポジウム」に行って参りました。日本からは教師1名・長老1名と神学校の吉田研究生・金原神学生・野々山神学生・伊藤の4名が参加し、CRCのスパーリンク宣教師に引率いただきました。とてもありがたいことに国際招待メンバーとして主催者に現地滞在費用を全額出していただき、航空券も半額の補助を神学校からいただきました。多くの方々の献金によって貴重な学びの機会を得たことを感謝します。

シンポジウム全体の参加者は千人規模、うち国際参加者は約30か国から90余名だったとのことです。会期中は1日に3回、礼拝をささげました。それぞれの礼拝には特色があり、例えば舞踊が披露されるとか、聖書朗読が演劇で表現されるとか、香が焚かれるなど、私が経験したことのない形式の礼拝も多々ありました。奇をてらっているのではなく、神様の御栄光を現わす礼拝としてどんな表現ができるのだろうかという真剣な問いが背後にあったのだと思います。また黒人霊歌やヒスパニックの賛美を特に取り上げた礼拝もあり、多文化の会衆が一つになって礼拝するということにも意識を向けさせられました。閉会礼拝では頌栄の賛美歌を各国語で歌いましたが、この一つの会衆が全世界に帰って行って、それぞれの場所で礼拝をささげるために派遣されるのだということに感動しました。私も胸がいっぱいになりながら日本語で賛美しました。

他、いくつかの興味あるテーマの分科会に参加して学びを深めたり、国際参加者の交流会で世界中のキリスト者と語らったりなど、有意義な時間を過ごしましたが、この誌面ではすべてを紹介しきれません。私にとっては神様を崇めることに集中するため礼拝に何が必要かを考えるきっかけになりました。遠いところで行われますが、機会があれば、この校報を読んでおられる皆様にもぜひご参加をお勧めいたします。

3年生　伊藤築志

2020年神学校行事（抜粋）



1月7日（火）
第3学期開講講演
講師：ステファン教授

2月7日（金）
全校祈祷日
講師：立石章三先生

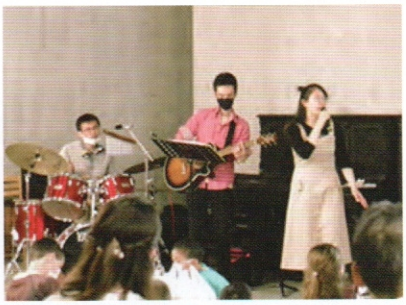
3月10日（火）
第68回卒業式

4月3日（金）
第71回入学式

6月19日（金）
新入生歓迎会

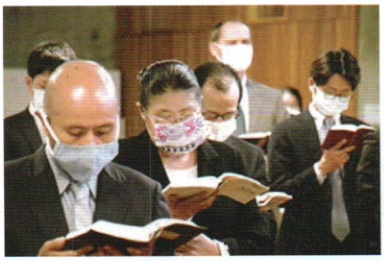
【訂正】昨年発行の校報No.88の以下の文章の執筆者について訂正させていただきます。「秋の信徒神学講座」の報告を書いてくださったのは、吉田崇特別研究生でした。また、「特別公開講座」の報告の執筆者は、長谷川はるひ神学生でした。両者の名前が入れ替わって記載されてしまいましたので、謹んで訂正させていただきます。

卒業式・歓送会
3月10日



新入生歓迎会
6月19日

夏期伝道派遣式
6月19日



神戸改革派神学校

2021年度新入生募集案内

激しい時代の変化の中で、変わることのない神の国の福音の希望を伝えるために。
あなたの人生を主に献げてください！

4年制コース

教職養成課程です。ゆとりある充実した授業とともに実践面を強化します。
男女とも。

2年制コース（4年制への編入も可能）

教会に献身する信徒のためのコース！
信徒説教者・伝道者など教会献身者の神学教育のために。

特別研究科・聴講制度あり

- 願書締め切り：2021年1月10日（日）
- 入学試験　　：2021年2月16日（火）

www.krts.net
「神戸改革派神学校」で検索

まずはお問い合わせください！

〒651-1306
神戸市北区菖蒲が丘3-1-3
神戸改革派神学校
TEL：078-952-2266
FAX：078-952-2165
E-MAIL：rcj-kobe2266@nifty.com

発行　2020年8月31日発行 / 発行所：神戸改革派神学校 / 〒 651-1306 神戸市北区菖蒲が丘3丁目1-3
TEL (078)952-2266 / FAX (078)952-2165 / 振替 01140-5-12672 /e-mail : rcj-kobe2266@nifty.com